

## 省力化低コスト技術の実証試験について

現在、全農にいがたでは省力化低コスト技術の普及拡大に向けて、関係機関と連携し、様々な実証試験に取り組んでいます。実証試験の一部について紹介いたします。

### 密苗播種・移植システム

乾籾播種量を育苗箱1枚あたり250～300gの高密度で播種することにより、苗箱数・育苗日数を低減します。密播した苗はヤンマー独自の技術により、3～4本ずつ精密に掻きとり、これまでの田植えと同様に移植します。

全農にいがたでは、育苗箱1枚あたりの乾籾播種量を200～300gの間で様々なパターンで播種をおこない、すべてのパターンにおいて、問題無く育苗することができました。



(右上から時計周りで 250g⇒300g⇒200g⇒140g)



(235g 播種で育苗 17 日間の苗)



(ヤンマー専用田植機による移植)



(移植後の苗)

移植試験では浮き苗や転び苗もほとんどなく、また、連続欠株もほとんど発生しませんでした。乾籾播種量が250～300gの場合、反あたり使用箱数は7～8枚となりました。

※ 掲載内容の無断使用・転載を禁じます。

## 土壤センサ搭載型可変施肥田植機（8条植）

田植機に搭載した土壤センサが「作土深」と「土壤肥沃度」を瞬時に検知し、施肥量を自動制御することで、圃場内の稲の生育を平準化することが可能なシステムです。



(キセキ可変施肥田植機)



(タブレットによる事前設定)

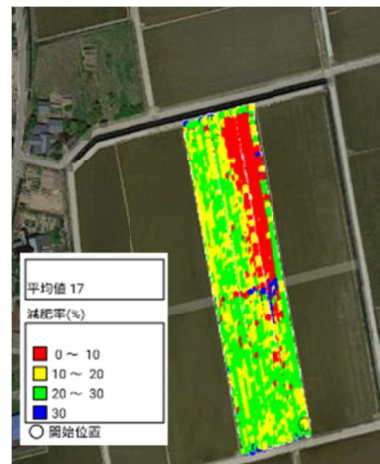
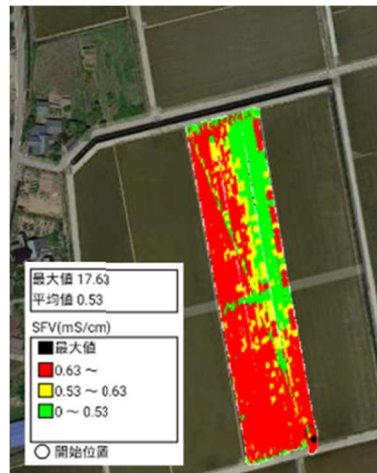
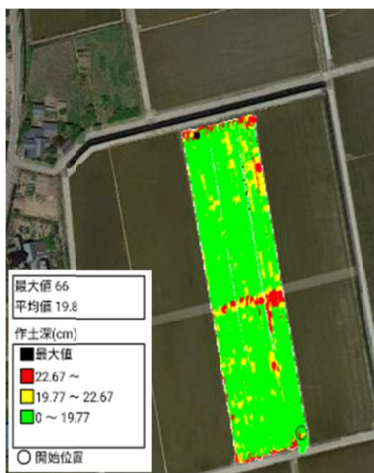


(移植前の基準値測定の様子)



(移植の様子)

## 【中之口A氏の実証試験の測定値MAP】



(移植後の測定値MAP : 左画像から「作土深」、「肥沃土」、「減肥率」)

- 作土深 : 切り返し部分および圃場中央の作土深が深い
- 肥沃度 : 赤い部分は肥沃度が高く、緑の部分は肥沃度が低い
- 減肥率 : 切り返し部分と圃場中央で30%減肥し、肥沃度が低い場所(圃場右上)は減肥率が低い

実証試験の詳細・結果につきましては、今後の営農レポートで報告します。

( 担い手・営農支援部担い手・営農支援課 )

※ 掲載内容の無断使用・転載を禁じます。